

なすこともなく過ごした1年数ヶ月ではあったが、この間一期生会世話役として多くを教えられまた考えさせられた。

その第1は一期生としての級友愛・団結の強さであり、また各分野に働らくわが級友の健斗であった。そして、陸海空間の障害が、われわれ防大出身者の友情の前に除いてわあるが取り除かれつつあることに明るい未来を感じた。期生会役員を引き受ける前までは陸空の同期と会っても共通の話題に欠け「オス」程度の挨拶で止まるのが常であったが、共通の目的を持ち、悩みに直面する一期生会という組織の運営に参加し、陸空の級友と喜怒哀楽を共にするに従がい陸空の諸兄の物の見方、考え方を学び得たが、これは何よりも大きな収穫であった。また、調査という私の仕事が、陸海空の利害の対立がないためか、仕事の上でも極めてスムーズで共に得るところが多かったように思われる。しかし、卒業後10数年、異なる環境に過ごし陸海空の同期生間に空洞化現象が生じつつあることも事実である。今、われわれに必要なことは東京地区に比較的多数の級友が勤務するこの機会に「集まり、話し合い」小原台の友情を再確認することであり、宮中君の言う「情念」のつながりを強化することである。

その第2は、われわれに対する各部の期待の大きなこと、多様なことで、あらゆる世代・立場の人からの異なる期待が交錯し、これら期待の大きさ、多様性に驚ろかされた。

「一期生の言動に失望した、一期生の体質も体質も意外と古いですね」と言う後輩、また「頼りない・腹ができてない」と言う旧軍関係者。信念のない、八方美人ではこれらの期待に応じ得ることは到底できない。これらの期待に答え得る道は、われわれ一期生の一人一人が自衛隊内の営利・栄達にとられることなく、もっと判りやすい言葉で申し上げれば現在の勤務評定進級等にまどわされることなく「自衛隊かくあるべし」という高い信念・ビジョンを持って各人がそれぞれの分野で捨て石となる覚悟で努力すべきで、あくせく上下左右の短期的な評価・人気を気にする必要はない。一期生一人

一人が未来に対する理想と信念を持ち新しい自衛隊のバイオニアとして栄達を去り大きくビジョンに生きてもらいたいと思う。

その第3は陸海空3自衛隊間の体質の相異特に長所・美点の再認識・再発見であった。4年間、同じ「釜の飯を喰った」という体験から他自衛隊に関してもかなり知っているという安心感が何時の間にか我流の独善的陸空自衛隊の概念を形成してしまっている。

この1年有余の間、各幕の級友を通じ教えられることが実に多かった。各自衛隊にはそれぞれの特質があり、長所・美点があり、互に学ぶべき点が多い。

この意味からも、前会長が始められ、本期会長がさぼって休講中だった勉強会の復活を是非お願いし終りと致したい。

一期生会の今後一層の発展を祈りつつ。

平 間 洋 一

(旧会長)